

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193600129), 法人名 (社会福祉法人富門華会), 事業所名 (安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」), 所在地 (勇払郡安平町早来北進75-32), 自己評価作成日 (平成29年11月26日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の人権と尊厳を守り、個々の生活レベルを尊重しながら「ゆっくり・のんびり・楽しく」生活する中で認知症状が緩和されるようなサービスを提供し、温もりと安らぎのある人生をサポートしますという基本理念の下、職員それぞれが個性を發揮して明るく元気にそして専門職としての意識を持って介護します

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0193600129-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年12月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」』は、安平町早来地区の住宅街に春には色鮮やかな花を咲かせる桜の並木道に沿って同法人のデイサービス、ケアハウスと並び建つ1ユニット9人、平屋建てのグループホームである。同事業所は2002年、旧早来町により土地、建物は町有の委託業務施設として開設され、現在は安平町の指定管理施設となり、業務全てが町議会の承認を得て運営されている。同事業所の特筆すべき点は介護に対する意識の高さにあり、それは介護計画に於いて手段が目的にならないよう等に留意し、職員全員が利用者一人ひとりの生活状況を把握し共有した上で“笑顔をつくる”“野菜の皮むき”等の利用者個々に特化した分かり易い短期目標の設定にあり、そして車イスは移動の手段という認識を強く持ち、食事時には普通のイスに座り変える等を当たり前の事としていることである。そして、月1回発行している「さかえだより」を町在住の6家族には管理者が直接手渡すことで意見交換の時間とし、又昨年より事業所に対する利用者、家族の満足度調査を行う等、利用者の為の“ゆっくり、のんびり、楽しく生活する”介護に日々努めている『安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」』の今後になお一層の期待をしたい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に『地域密着』という言葉は入っていないが、地域の行事への参加や施設行事への地域住民の参加も呼びかけ、地域の一員であるということを認識している	理念は事業所内各所に掲示されており、職員は理念を通して介護に対する高い意識を持つこととし、利用者の為の“ゆっくり、のんびり、楽しく生活”への積極的な介護に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどを地域に解放しているが、日常的な交流は挨拶程度である	同法人のケアハウス「サクル」と共に祭り、バーベキュー等に町民を招待し、又運営推進会議メンバーと協力して福祉コースを履修する高校生も含めた団体、組織それぞれ個別に対応した「認知症サポーター養成講座」を年1回程主催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座を実施している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員や消防署員などの参加もあり、ホーム内の事だけではなく、地域の情報交換の場としても活用されている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、事業所に於ける行事等だけではなく、件数は極めて少ないがヒヤリ・ハット、事故等の報告も行い、事業所の情報を積極的に広く公開することに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の指定管理施設であり問題はない。	当事業所は安平町より指定管理施設としての指定を受け、事業所に於ける決済事項は全て町議会の承認を得る為に、町の担当部署である健康福祉課とは常に連絡を取り合い、情報を共有し緊密な関係を継続している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々のケースを検討する中で、身体拘束にならない様に検討している。玄関の施錠は夜間のみ	昼間は玄関の施錠はしておらず、利用者が一人で外に出ても敷地内ならば職員は近くから見守るだけとしている。又、月1回の会議、その都度等の職員同士の話し合いにより、利用者への手助けの方法は一人ひとり個別に判断する等して、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修会に参加し、その報告を職員会議でしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、市民後見人の養成講座を受講予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、随時必要な場合には話し合いを行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス満足度調査アンケートを実施している	今回2回目となる満足度調査は利用者の意外な意見が確認でき、又月1回発行の良いことも悪いことも書き込まれる利用者一人ひとりに特化した「さかえだより」は町内在住の6家族に管理者が配達し、その時に多くの意見を聴取し、その反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回実施し、そこで意見を聞く機会はある	職員8人中、10年以上勤続4人、開設以来の職員が3人居り、事業所に於ける介護は熟知され、又その情報は職員間で共有されており、会議等に於いても活発な意見が出され、その意見に沿って“なんでも試しにやってみる”こととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は低くはないと思うが、労働条件は過酷になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は積極的に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は北海道グループホーム協会のブリック理事であり、他施設との情報交換の機会は多い		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人調査の様式を作成し、それにより本人把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの段階からケアマネを通し相談に乗れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとの連携を密にして対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によっては、介護する側と介護される側と認識してしまっている場面もある		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの立場で家族介護を考えがちになる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や床屋などは継続できるように支援している	利用者の殆どが町内出身者であり、同法人のデイサービス、ケアハウスに友人、知人が居り、今だに付き合いが続き、町内の床屋には利用者のほぼ全員が通う等、馴染みの人、場の継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	狭い空間の中での生活なので人間関係が複雑にならない様に配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側から意識的に連絡を取ることはないが、退去した家族からの連絡や相談には応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方に対しては個別に職員間で話し合いを行っている	当事業所では入居時に利用者、家族の思い、意向を確認することとしており、そして入居後に於いても利用者により寄り添う日々の介護の中で、又家族には来訪時、家族宅訪問時等に管理者を含めた職員がその思い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前アセスメントを行い生活歴などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌により総合的に把握できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を毎日記入していく中でケアプランとのずれを認識しやすいようにしている	利用者が笑って過ごしたいとの希望が多いことから、介護計画の短期目標は分かり易い「笑顔をつくる」を第一に「野菜の皮むき」等として、介護で当然の手段が目的化しないように留意しながら、介護計画が事業所での利用者の日常となるよう日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェックポイントを随時確認しながら記録に記入し、情報を提供している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイを実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用していることはない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての入居者さんがそれまでのかかりつけ医を継続している	殆どの利用者の以前からのかかりつけ医が早来地区の2カ所の協力医院でもあり、以前は不可能となっていた往診医療も現在は行われており、利用者の為の健康維持、体調管理は安全、安心の体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の病院より毎月看護師に健康チェックを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町内の病院と医療連携を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携をしている病院は町内ではあるが20キロ以上離れており、訪問診療もしていただけない状況なので、積極的にターミナルケアを行う環境にはない	終末期、看取りに取りかかる環境整備に苦勞していたが、現在では早来地区での2カ所の協力病院とも往診ができる体制となり、終末期指針通りの看取りが可能となっている。職員は研修等に積極的に参加し、看取りへの意識を高める為に日々努めている。	終末期、看取り時に於ける環境整備が進められている中で、職員の研修への積極的な参加、職員同士の話し合い等で意識を高める事により、終末期、看取りに対する利用者の思い、意向の実現への充実になお一層の期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習をホーム内で数年おきに行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害による避難を実際に経験しており、そのための訓練も実施している	当事業所は”土砂災害危険地域”に指定されているが、現在は砂防ダムが作られ安全が保たれている。停電、地震等の災害時には隣接するケアハウスに避難することとして家族にも周知し、利用者の為の安全、安心の避難体制が図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気や職員としての垣根を持たない様にとの考え方の延長で時々行き過ぎた対応になっている	利用者への呼びかけは時、場所、場合に応じた名前呼び方とし、利用者との親しさは1対1の時のみの個別対応とする等留意し、利用者の人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力や表現力の変容を職員間で確認しながら入居者さんの意向や希望をくみ取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの様子を確認しながら日課表に縛られることなく柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感も考慮しながら配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人により出来ることや好きなことを行ってもらうようにしている	食材は町内の2軒の食料品店から買い入れ、職員が献立作り、手伝いを介護プランの目標としている利用者と共に調理も行い、美味しく楽しい食事となっている。又敬老会等には廃校となった小学校でNPOが経営する食堂での外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食チェックや水分摂取量を記録し、体重を定期的に計測している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ではなく、起床時と就寝時にケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁パンツ、紙パンツ、紙パットの使用を入居者さんの状態を見ながら、自尊心と羞恥心を考慮して検討している	トイレでの排泄を基本としており、利用者全員が布パンツを使用することとし、オムツを使用する利用者はいないようにし、人間としての尊厳を守ることに日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確認と、医師と相談しながら本人に合った便秘薬の服用を考えている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(火・木・土)の決められた時間内で本人の希望に添うように対応している	浴室には窓が2ヶ所作られ、バスタブにゆったりと浸かると、その窓からは若葉、陽に煌く葉、色彩溢れる紅葉そして雪の綿帽子へと四季折々に変化する雑木林が眺められ、利用者の入浴を楽しませてくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態を考慮して配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の変更や追加などがあった場合その都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や残っている能力を考慮して役割の設定や気晴らしを設定している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則的には希望に添うようにしているが、天候・体調・職員数等によりすぐには対応できないことも多い	豊かな自然に囲まれており、事業所周辺で四季の移ろいを愛でながらの散策を十分に楽しむことができる。同法人のケアハウスと共に地域の人を招待してのバーベキューを楽しむこともあり、事業所、ケアハウス、デイサービスが連なる桜の並木道は花見の絶好のロケーションとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない入居者さんのお小遣いはホームで管理。歩いて行ける距離にはお店もなく、本人が使う機会は限られている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に規制はしておらず、希望があった時には速やかに対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや時計の見せ方にも配慮している	共有空間は四方に多くの窓が配され、常に陽が射し込み、窓の下にはソファが置かれ外の景色を眺めながらの会話を楽しむことができるようになっている。食堂では車イスの利用者も普通のイスに座り換えて食事を楽しみ、利用者同士、職員との会話が、そして笑い声が常に聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になれるようなスペースはない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しながら、馴染みの物を使用するように家族にも協力してもらっている	居室は8畳程の広さがあり、クローゼットが据え付けられ、イス、テーブル、ベッドは事業所の無料貸与となっており、職員の“ゆっくり、のんびり、楽しく生活する”介護の中で、利用者はこの居室で一人の寛ぎの時間を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて居室やトイレ、食事の席などを理解してもらえよう配慮している		